

予報期間 6月13日から6月19日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 台風第1号については最新の台風予報を参照。
- 15日から17日にかけて、日本の南に高気圧が張り出し、気圧の谷が日本海から北日本に進む。
- 18日から19日にかけて、引き続き高気圧が日本の南に張り出す。

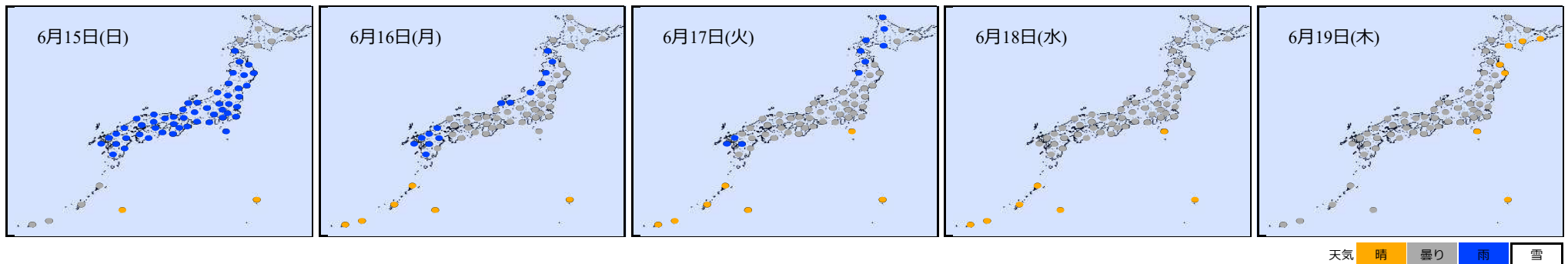
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 17日頃にかけて、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発となる見込み。東日本、西日本を中心に大雨となる所があり、前線の活動の程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

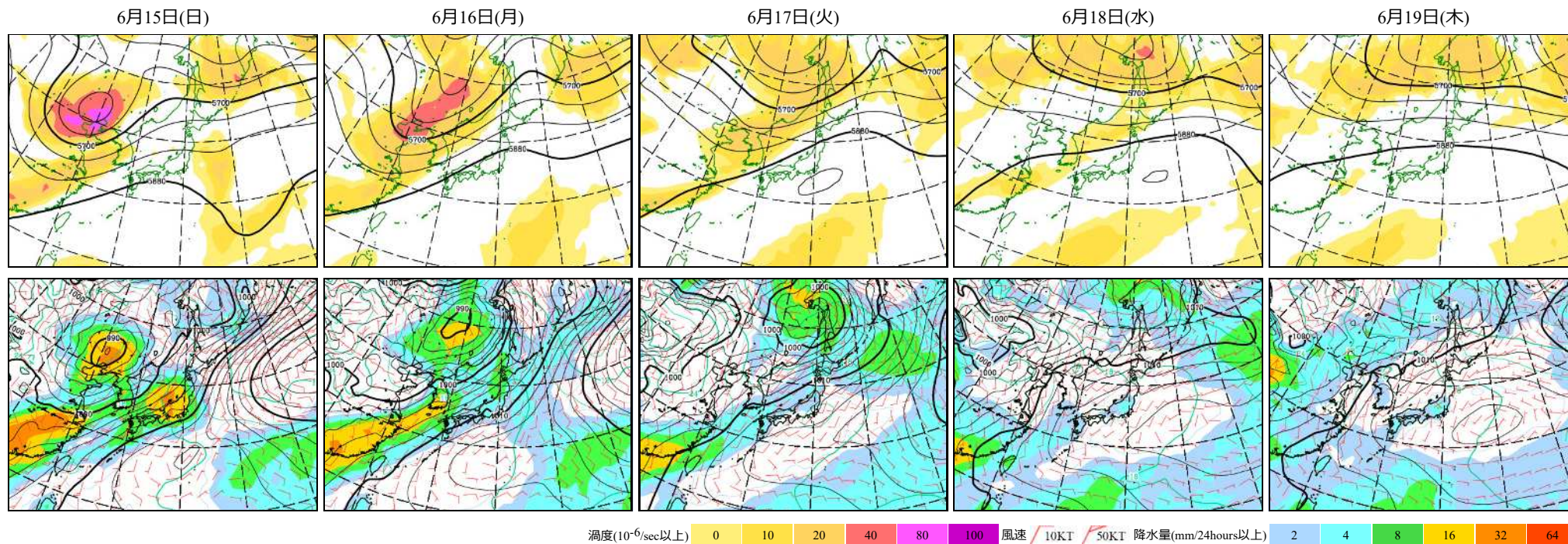
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

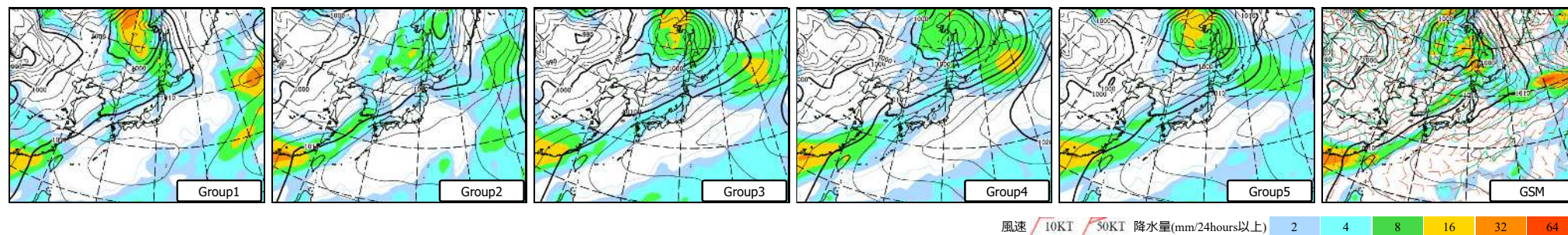


- 北日本では曇りや雨の日が多いが、19日は晴れる所がある。
- 東日本から西日本にかけては、曇りや雨の降る所が多い。
- 沖縄・奄美は曇りや晴れの日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月17日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、17日に日本の東のリッジが強くなり、17日から18にかけて日本の東の高気圧の日本付近への張り出しが強くなった。
- 期間の終わりは特定高度線のばらつきが大きくなるが、5880m線は日本付近では東北地方付近まで北上することは一致している。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。